

車いすユーザーの方 講師してみませんか？



岩見沢市社会福祉協議会（通称：社協）には、日頃、小中高校等から**車いす体験などの福祉学習**の依頼が寄せられています。

社協では、学校等からの依頼に対して、**障がい当事者の方、ボランティアの方と一緒に体験学習**を行っています。

体験学習の際、子どもたちには、ただ車いすの操作方法を学び技術を身につけるだけではなく、**障がいを正しく理解し、同じ地域社会の中で共に生きること、人と人との支えあいを学んでほしい**と願っています。

「障がいを正しく理解する」

これは、どうしたら子どもたちに伝わるのでしょうか。私たちは、やはり、**障がいのある皆さんがお話しすることが一番である**と考えています。

身をもって経験してきたことを伝えることは、大きな説得力をもち、子どもたちの心に深く響きます。

皆さんの言葉の一つ一つが子どもたちの理解につながると考えています。



「講師」として・・・

社協では、車いすユーザーの方が普段どのような生活を送られているのか、これまでどのような体験をしてきたのかなど、障がいを伝える**「講師」**としてお話ししてくださる方を探しています。

人前で話すのは苦手という方。心配は要りません。先輩が優しく教えてくれます。

自らの経験を伝えたい！とお考えのあなた。あなたの力を必要としています。一緒に想いを形にしていきましょう！



【問合せ先】

社会福祉法人 岩見沢市社会福祉協議会 担当 清水

お気軽に
ご連絡ください！

〒068-0031 岩見沢市11条西3丁目1番地9 岩見沢広域総合福祉センター内

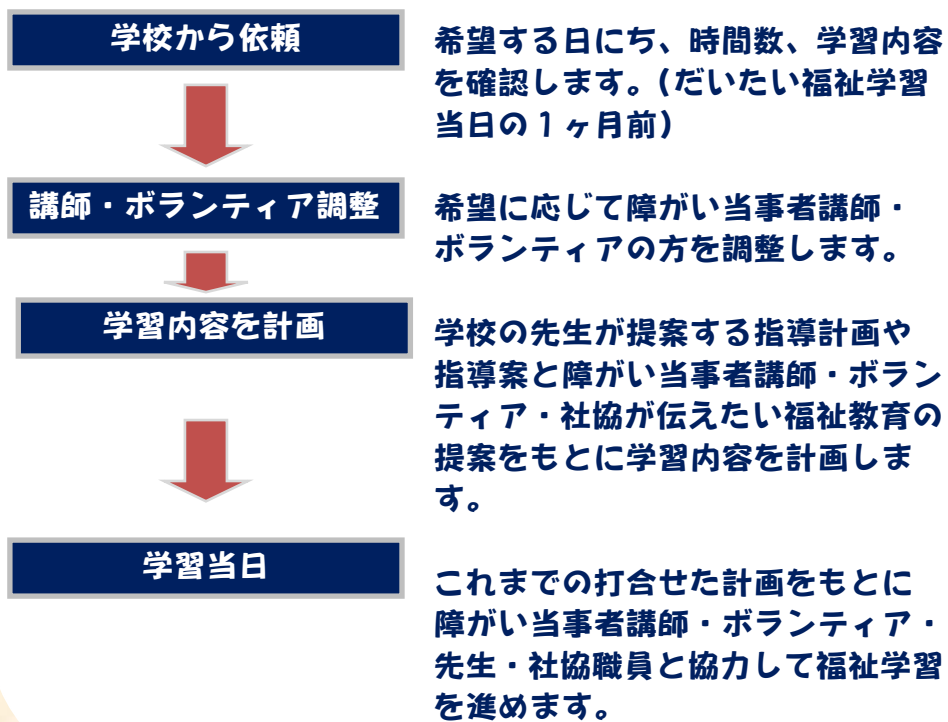
《TEL》 0126-22-2960

《FAX》 0126-24-4977

《E-mail》 iwamizawa-syakyo@helen.ocn.ne.jp

《ホームページ》 <http://www.iwamizawa-syakyo.or.jp/>

【福祉学習の流れ】



【講師の方にお話しいただいていること】

- ◆ご自身の障がいについて
- ◆普段の日常生活について
- ◆生活上の工夫について
- ◆仕事について
- ◆生活上の不便なことについて など

また、車いす体験の際には、車いすの操作方法や乗り手の視点から介助する上での注意点などについてもお話しいただいています。



車いす生活について



車いすの操作指導

【過去に生徒から寄せられた質問】

- ◆車いすに乗っていてとても怖いと感じたのはいつか。
- ◆家具とかは、どんな工夫をしているのか。車いすに乗っていても、料理や皿あらいはできるのか。
- ◆お風呂はどうやって入っているのか。
- ◆車いすに乗っていない人にやってほしいことはあるか。
- ◆外出時の移動はどうしているのか。
- ◆飛行機のなかの過ごし方。 など



【特技・趣味を活かして】

車いすバスケットボールなどの障がいスポーツや講師の方の特技・趣味を活かした福祉学習プログラムの立案も行っています。

このようなプログラムは生徒にとっても人気です。



車いすバスケットに挑戦

【生徒から寄せられた感想】

- ◆「笠原さんのお話を聴いて、私はわかったことがあります。それは、笠原さんは車いすにのっているけど、笠原さんのおうちの中は、くふうをされていてとてもべんりな道具があるということがわかりました。なので、笠原さんのくらしはわたしたちとにているようなくらしをしていることがわかりました。(小学4年生)
- ◆僕は飛世さんを初めて見たとき、「僕は不自由なのではないか」と感じました。なぜなら飛世さんは車いすを使ってさっそうと登場したからです。飛世さんの話を聞いて、車いすにも不便なところがあることを知りました。たとえば、階段を登ることが一人ではとても登りきれないことです。ここで僕の気持ちは、「僕は不自由」から「みんなが平等に不自由」ということに変化しました。なぜなら車いすにだって不自由がある。僕たちにだって不自由があるからです。ただ不自由が少しちがっている、それだけです。飛世さん、この事を気付かせてくれて、本当にありがとうございました。(中学2年生)
- ◆車いす体験学習を通じて、車いすに乗っている側からの視点で見た段差の危険や、自分で操作する難しさというものを実感することができました。今まで分からなかった「車いすに乗る人」と「補助する人」の視点を体験し、知ることができました。これからも、今回の学習を忘れず、また、「自分に出来ること」を考えることで車いすの人との距離が無くなっていくのだと思いました。(中学3年生)
- ◆今回の車いす体験を通じて、車いすの人に対する気配りや、思いやりなど車いすの人にとって嬉しい事が色々分かり、身をもって感じれたことがほんとに嬉しく思います。僕はこれから車いすの人を見かけたら少しでもサポートできるように今回の体験を無駄にしないようにしていきたいと思います。(中学3年生)